



MBCテレビ毎月第1、第2金曜日の  
16時35分頃放送中

# 国保で HOT情報

毎年9月は日本対がん協会が主唱する「がん征圧月間」です。がんの中でも、日本人の大腸がんでの死亡者数は年々増加傾向にあり、2020年では、がんによる死亡数として、男性3位・女性1位となっています。

そこで大腸がんについて、なおこ胃腸内科クリニックの坪内直子院長にお話を伺い、9月2日にお伝えしました。

## 定期的な検診で健康を意識 教えて！大腸がん



なおこ胃腸内科クリニック 坪内直子院長

大腸は小腸の先に続く、食べ物の最後の通り道で、主に水分を吸収する役割を持っています。そのため、大腸が不調になると、便秘や下痢がおこってきます。

### 一大腸がんの原因はあるのでしょうか？

大腸がんは、大腸の粘膜から発生するがんです。大腸がんの多くは、まず良性のポリープができ、その一部が数年かけて早期がんから進行がんへとなっていきます。

大腸がんは、家族歴のある方やポリープがある方がかかりやすい傾向にあるほか、食事・喫煙・飲酒などの生活習慣にも関連しています。



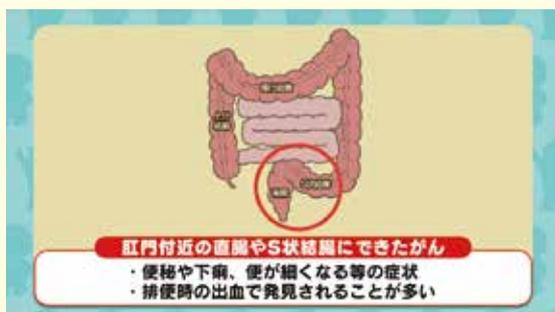
## 一では、大腸がんにはどのような症状があるのでしょうか？

大腸は、1.5m～2mある非常に長い臓器ですので、がんの発生箇所によって症状が異なります。肛門付近の直腸やS状結腸にできたがんは、進行すると便が通過しにくくなり、便秘や下痢、便が細くなる等の症状があります。

排便時の出血で発見されることが多いことから、がんであることに比較的気がつきやすいです。

一方で、上行結腸や横行結腸にできたがんは、がんが大きくなってから腹部のしこりや貧血などで初めて気づかれることもあります。

大腸がんというのは、初期症状が非常にに出にくく、症状が出るのはがんが進行してからのことが多いので、検診での早期発見が一番の対策です。



具体的には、排便時の便やティッシュでの出血を確認したら、内視鏡検査を、何も症状がない方は大腸がん検診を受けるようにしましょう。大腸がんの治療は進歩しており、内視鏡治療や抗がん剤治療で治癒することも可能です。早期発見・早期治療が一番の対策になりますので、是非毎年検診を受けるようにしましょう。

ここで皆様にお伝えしたいのが、こちらになります。

「検診を受けるのは健康なあなたです！」  
症状の無い健康な方でも、40歳以上の方は毎年検診を受けていただきたいです。

一わかりました。日頃から油断せず、定期的な検診で健康を意識するようにしましょう！

